

【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|----------------------|--|----------------------|--------|------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち | | |
| 2 | 施策 | 3-1 | 生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する | | |
| 3 | 対応するSDGs |  | | | |
| 4 | 施策の方向性 (後期基本計画より) | 本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関、企業等との連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人の学習や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。 | | | |
| 5 | 評価者等 | | 部 名 | 補職名・課名 | 氏 名 |
| | | 評価者(部長級) | 市民文化部 | 部 長 | 中井 誠 |
| | | 施策主担当課 | 市民文化部 | 文化振興課 | - |
| | | 施策関係課 | 社会教育振興課、中央図書館 | | |
| 6 | 施策内の取組 | 3-1-1 | 生涯学習推進体制の整備 | | |
| | | 3-1-2 | 生涯学習についての普及啓発の推進 | | |
| | | 3-1-3 | 成人の学習の推進 | | |
| | | 3-1-4 | 公民館活動の推進 | | |
| | | 3-1-5 | 図書館サービスの充実 | | |
| | | | | | |

2 令和3年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|-----------------------------------|--|-----------------|---|--|--|
| 1 | 総合評価 | B | A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 | | |
| 評価理由(R3年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) | | R3年度末現在の施策の主な課題 | | | |
| 2 | 生涯学習推進体制の整備については、新型コロナウイルス感染症対策による生活様式等の社会情勢の変化を捉え、今後の生涯学習の方向性を示す指針として「茨木市生涯学習推進計画」を策定しました。また、天文観覧室については、定期的にテーマを変えて投影する等工夫することで利用推進に努めました。 生涯学習の普及啓発の推進については、Next Stage情報掲載数は目標値である410を上回り、コロナ禍における事業実施の工夫等により前年度よりも大幅に掲載数は増加しました。 成人の学習の推進については、識字・日本語教室事業は感染症対策を講じるとともに、各教室の実情に応じたオンラインの活用や通信添削等を取り入れました。また、日本語教育や多文化共生の理解を深め地域における人権意識の醸成を図るために指導者研修を実施し、新たな指導者を獲得しました。 公民館活動の推進については、公民館講座・講習会等は感染症対策を講じるとともに、募集人数や開催回数の基準を緩和したことにより、受講者数・開催数は増加しました。また、館長・主事会議及び運営委員長会議を開催し、コロナ禍における公民館事業(文化展)の開催や民間事業者と連携した現代的課題等に係る講座・講習会の情報を共有しました。 図書館サービスの充実については、新型コロナウイルス感染症の影響により一時期休館する中で、予約資料の受付・貸出、有料郵送貸出の実施など、できる限り資料提供に努めました。また、おはなし会や読書会等行事は3密対策を講じながら再開し、市民団体やボランティアと連携することで創意工夫を図った図書館サービスを提供しました。また、市ホームページのメール茨木に継続的に読書案内コーナーを掲載、SNSを活用した広報、講座のオンライン開催、パスワードの再発行を図書館ホームページ上で可能とするなど、非来館型サービスの充実にも努めました。 以上から、コロナ禍の影響により、施設の臨時休館はあるものの、新しい生活様式を踏まえた取組が推進されていることから、施策の方向性として概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。 | | 課題① | 「茨木市生涯学習推進計画」の方向性に基づき、市民ニーズに沿った生涯学習を推進し、また、インターネット等を利用したより効果的な学びにつなげるため、学習環境の更なる充実が必要です。 | |
| | | | 課題② | 引き続き生涯学習情報誌発行に係る情報収集の充実に努め、ICTを活用した生涯学習情報を発信し、市民に周知をする必要があります。 | |
| | | | 課題③ | 識字・日本語教室事業について、コロナ禍における各教室の実情に応じた適切な感染症対策を講じ実施するとともに、多文化共生事業の一環として、庁内連携し取り組んでいく必要があります。 | |
| | | | 課題④ | 新しい生活様式における公民館行事の実施について、各公民館の間で情報共有を図る必要があります。 | |
| | | | 課題⑤ | 中条図書館の円滑な移転に向け、新施設の特徴をいかした運営や連携を検討し、本格的に準備を進める必要があります。 | |

| | | | | | |
|---|--------|-----|----------------------|--|--|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち | | |
| 2 | 施策 | 3-1 | 生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する | | |

3 施策内の取組の評価

| | | | | | | | |
|--------------------|------------------|---|---|--------|------------|-----------|-----------|
| 1 | 取組 | 3-1-1 | 生涯学習推進体制の整備 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | 文化振興課 | 課長名 今西 雅子 | |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 令和3年度は、人生100年時代の到来や働き方改革による余暇時間の増加、新型コロナウイルス感染症対策による生活様式等の社会情勢の変化を捉え、今後の生涯学習の方向性を示す指針として「茨木市生涯学習推進計画」を策定しました。利用者の快適な学習環境を整えるため、経年劣化による空調設備等の改修について、工事設計を行いました。また、天文観覧室については、定期的にテーマを変えて投影する等工夫することで利用推進に努めました。 Withコロナ・Afterコロナを見据えた取組を実施しましたが、生涯学習センターを拠点とした生涯学習関連施設との連携については具体的な取組が検討できていないことから、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| | | 大学連携講座受講者数 | 人 | ↗ | 1,250 | 1,778 | 1,300(R4) |
| 講座の動画配信数 | 本 | ↗ | 5 | 11 | 17(R4) | | |
| 天文観覧室(プラネタリウム)利用者数 | 人 | ↗ | 2,475 | 6,719 | 14,500(R4) | | |

| | | | | | | | |
|---|------------------|--|---|--------|-------|-----------|---------|
| 1 | 取組 | 3-1-2 | 生涯学習についての普及啓発の推進 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | 文化振興課 | 課長名 今西 雅子 | |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながる多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | Next Stage情報掲載数は目標値である410を上回り、コロナ禍における事業実施の工夫等により前年度よりも大幅に掲載数は増加しました。また、市ホームページやフェイスブック等、きらめきホームページにて、より多くの市民が生涯学習機会の情報を得ることができるよう努めました。 Next Stage情報掲載数は目標値を上回ったことにより、様々な生涯学習情報を発信することができましたが、対象者を特定した情報発信方法を検討できていないことにより、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| | | Next Stage情報掲載数 | 件 | ↗ | 345 | 432 | 410(R4) |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| | | | |
|---|--------|-----|----------------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち |
| 2 | 施策 | 3-1 | 生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する |

| | | | | | | | |
|-----------------|------------------|---|--|--------|-----------|------|---------|
| 1 | 取組 | 3-1-3 | 成人の学習の推進 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 教育総務部 | 課名 | 社会教育振興課 | 課長名 | 吉崎 幸司 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 識字・日本語教室事業について、コロナ禍においても、適切な感染症対策を講じるとともに、オンライン活用や通信添削等を各教室の実情に応じて取り入れ、実施することができました。また、日本語教育や多文化共生について理解を深め、地域における人権意識の醸成を図るため指導者研修を実施し、新たな指導者を獲得することができました。 以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行できましたが、多文化共生事業の一環として、庁内連携し取り組んでいく必要があるため、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| 社会教育関連講習講座の参加者数 | 人 | → | 993 | 1,007 | 1,100(R4) | | |

| | | | | | | | |
|------------------------------------|------------------|--|--|--------|-----------|------|---------|
| 1 | 取組 | 3-1-4 | 公民館活動の推進 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 教育総務部 | 課名 | 社会教育振興課 | 課長名 | 吉崎 幸司 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 公民館講座、講習会等については、令和2年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動制限を受けましたが、感染対策を講じるとともに、募集人数や開催回数の基準を緩和するなど、地域の実情に応じて実施したことにより、受講者数・開催数は増加しました。 また、館長・主事会議及び運営委員長会議を開催し、コロナ禍における公民館事業(文化展)の開催や民間事業者と連携した現代的課題等に係る講座・講習会の情報を共有することができました。 以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行できましたが、公民館講座等の充実に向けて情報提供を図っていく必要があるため、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| 小学校区公民館講座受講者数 | 人 | ↗ | 1,674 | 1,780 | 1,800(R4) | | |
| 小学校区公民館講座等開講数 | 講座等 | ↗ | 227 | 268 | 280(R4) | | |
| 講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取組によるもの | 回 | ↗ | 12 | 26 | 32(R4) | | |

| | | | |
|---|--------|-----|----------------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち |
| 2 | 施策 | 3-1 | 生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する |

| | | | | | | | |
|--------|------------------|---|---|-----------|----------------|-----|---------|
| 1 | 取組 | 3-1-5 | 図書館サービスの充実 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 教育総務部 | 課名 | 中央図書館 | 課長名 | 吉田 典子 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、読書活動の推進が図られ、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 新型コロナウイルス感染症の影響により一時期休館する中で、予約資料の受付・貸出、有料郵送貸出の実施など、できる限り資料提供に努めました。また、3密対策を講じての開館時には、おはなし会や読書会等行事を再開し、市民団体やボランティアとも連携し、創意工夫を図った図書館サービスを提供しました。 市ホームページのエール茨木に継続的に読書案内コーナーを掲載、SNSを活用した広報、講座のオンライン開催、パスワードの再発行を図書館ホームページ上で可能とするなど、非来館型サービスの充実にも努め、概ね順調に進行していると判断し、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | 市ホームページのエール茨木に継続的に読書案内コーナーを掲載、SNSを活用した広報、講座のオンライン開催、パスワードの再発行を図書館ホームページ上で可能とするなど、非来館型サービスの充実にも努め、概ね順調に進行していると判断し、「b」評価とします。 | | | | |
| | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | R2年度 | R3年度 | | | |
| 資料貸出点数 | 点 | ↗ | 3,063,456 | 3,236,933 | 3,500,000 (R4) | | |
| 蔵書冊数 | 冊 | → | 1,258,319 | 1,263,106 | 1,250,000 (R4) | | |
| | | | | | | | |

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

| | | |
|---|-------|--|
| 1 | 学識経験者 | 高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授 |
| 2 | 意見等 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症によるパンデミック下においても、関係者の工夫によって事業が推進されるとともに、新しい生活様式を踏まえて、デジタルを導入するなどの生涯学習の機会づくりが実現されており、施策として一定の成果を得られていることが「施策の現状と課題」に示されていることから「B」評価は妥当であると考えます。 ・3-1-1の生涯学習推進体制の整備については、新しい生涯学習推進計画策定のもと、目標値を超える事業もあって成果が上がっているが、一方、評価に記載されているように、生涯学習センターを拠点とした関連施設との連携などの課題については検討が必要であろう。 ・普及啓発の推進については、広報誌での学習情報掲載数の大幅な増加は認められるが、より多面的な学習情報提供の実施が必要であり、SNSの活用などを含めて今後の方策を検討することを期待する。 ・識字・日本語教室事業については、社会教育振興課と文化振興課の両担当課が連携・協力して実施することが望ましく、多文化共生事業として生涯学習の一層の振興を図ることが望まれる。 |

令和3年度施策評価

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|----------------------|--|---------------------|---------------|------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち | | |
| 2 | 施策 | 3-2 | みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する | | |
| 3 | 対応するSDGs | <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 2px; display: inline-block; text-align: center;"> 3 <small>すべての人に健康と福祉を</small> </div> | | | |
| 4 | 施策の方向性 (後期基本計画より) | 本市のスポーツ推進計画に基づき、スポーツ関係団体等と連携し、健康増進・生きがいつくりのイベント、スポーツ教室等を開催するとともに、各自の興味や年齢、体力、技能等に応じて、誰もが気軽に生涯スポーツに親しむことができる環境を整えます。地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークを構築します。 | | | |
| 5 | 評価者等 | | 部 名 | 補職名・課名 | 氏 名 |
| | | 評価者(部長級) | 市民文化部 | 部 長 | 中井 誠 |
| | | 施策主担当課 | 市民文化部 | スポーツ推進課 | — |
| | | 施策関係課 | | | |
| 6 | 施策内の取組 | 3-2-1 | 多様な生涯スポーツ活動の推進 | | |
| | | 3-2-2 | スポーツ関係団体や指導者の育成 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

2 令和3年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|-----------------------------------|---|------------------------|---|---|--|
| 1 | 総合評価 | B | A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 | | |
| 評価理由(R3年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) | | R3年度末現在の施策の主な課題 | | | |
| 2 | 令和3年度には、SNSなどを活用してスポーツ教室や各種スポーツイベントの情報など、スポーツに関わる情報発信に努めました。その結果、ニュースポーツ体験会等の参加者が令和2年度に比べ2倍となるなど成果が上がってきています。 子育て世代や子どもの好奇心を引き付ける取組としては、新しく謎解きウォーキングを企画し、参加した3,400人の市民にとってウォーキングを始めるきっかけとなるなど、大きな成果を上げることができました。 スポーツを支える人材の育成や確保については、成り手が不足していたスポーツ推進委員を公募することや3回のスポーツ指導者講習会等を実施し、正しい指導方法の知識や技術の向上及び人材の確保に努めました。また、市内のスポーツ関係団体の連携により、地域でスポーツ教室も開催しました。 しかし、令和2年度からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本市のスポーツ活動の多くが中止や縮小となっており、市民一人ひとりのスポーツ参加機会が減少しています。その中で、安全に運動が実施可能なプログラム等の提供に努め、全体としては施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断しますが、引き続きコロナ禍でもスポーツに取り組めるよう支援と環境整備に努め、市民のスポーツ実施機会の向上に向け、様々な課題を解決する必要があるため、総合評価は「B」とします。 | | 課題① | スポーツに関心を持ち、スポーツに取り組む市民が増えるよう、一層の情報発信に取り組む必要があります。 | |
| | | | 課題② | 働き世代・子育て世代が気軽に始められるスポーツや子どもの好奇心をひきつけるスポーツ体験の取組が必要です。 | |
| | | | 課題③ | コロナ禍のためスポーツ参加機会が減少する中でも、安全にスポーツを楽しむことができるよう環境整備に努める必要があります。 | |
| | | | 課題④ | スポーツ関係団体の連携を図る必要があります。 | |
| | | | 課題⑤ | スポーツ指導者の資質の向上に取り組む必要があります。 | |

| | | | |
|---|--------|-----|---------------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち |
| 2 | 施策 | 3-2 | みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する |

3 施策内の取組の評価

| | | | | | | | |
|---|---------------------------|--|--|--------|---------|------------|---------|
| 1 | 取組 | 3-2-1 | 多様な生涯スポーツ活動の推進 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | スポーツ推進課 | 課長名 | 小西 勝二 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | スポーツ関係団体等と連携し、年代や障害の有無に関わらず、いつでもどこでも気軽に参加できるよう、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等が充実しています。 「する」「観る」「支える」といった様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | コロナ禍のため中止となったスポーツ大会等もありましたが、市や総合型地域スポーツクラブが実施するスポーツ教室・サークル活動のほか、障害者と共にスポーツを通じて交流するなど生涯スポーツを推進し、市民の健康増進・生きがいづくりにつながりました。また、小規模なニュースポーツ教室・体験会を開催し、これまでスポーツをしていない市民にとってスポーツを始めるきっかけとなりました。 参加人数は前年に比べ増加していますが、コロナ禍でも安全にスポーツに取り組めるよう、更なる情報発信と環境整備に努めていく必要があります。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| | 各市民体育館稼働率 | % | → | 80 | 77 | 80(R3) | |
| | ニュースポーツ体験会等の参加人数 | 人 | ↗ | 343 | 726 | 700(R3) | |
| | 市と市内の競技団体の共催によるスポーツ大会参加者数 | 人 | ↗ | 3,687 | 6,766 | 13,000(R3) | |

| | | | | | | | |
|---|-------------------|--|---|--------|---------|-----------|---------|
| 1 | 取組 | 3-2-2 | スポーツ関係団体や指導者の育成 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | スポーツ推進課 | 課長名 | 小西 勝二 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | スポーツ関係団体や地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークが構築されています。幅広い世代の人々が、生涯を通してスポーツを気軽に楽しめる機会を提供する総合型地域スポーツクラブが活発に活動しています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 地域体育館では総合型地域スポーツクラブとスポーツ推進委員協議会が協働してスポーツ体験会を行うなど、スポーツ関係団体の連携により、市内のスポーツ活動を推進しました。また、指導者研修会は新型コロナウイルスの影響により一部中止となりましたが、3月に実施した研修会では、オンライン配信によりコロナ禍においてもスポーツ指導者の資質の向上を図りました。しかしながら、参加人数は前年に比べ減少しており、オンラインによる配信回数を増やすなど、指導者育成のための情報の発信方法に、より一層の工夫を施す必要があります。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| | 総合型地域スポーツクラブの会員数 | 人 | → | 1,239 | 1,218 | 1,400(R3) | |
| | スポーツ指導者講習・研修会参加者数 | 人 | ↗ | 80 | 71 | 130(R3) | |

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

| | | |
|---|-------|---|
| 1 | 学識経験者 | 追手門学院大学社会学部 辰本 頼弘 教授 |
| 2 | 意見等 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進計画(後期基本計画)の実行に向けての取組は進んでいると考える。新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、「施策の現状と課題」において、スポーツにおける情報発信やスポーツ人材の育成に努めた取組は一定の成果が見られる。現状のコロナ下、またコロナ後を見据えた環境整備に関しても課題として明確になっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・取組3-2-1、「多様な生涯スポーツ活動の推進」では、各種教室や体験会への参加者に大きな増加が見られ一定の成果が表れているが、この継続およびさらなる増加の方策が重要となるため、参加しやすい環境整備やわかりやすい情報の発信に努めていただきたい。 ・取組3-2-2「スポーツ関係団体や指導者の育成」では、この人材の充実が市民のスポーツ参加の増加に大きく関わると考えるため、指導者育成の機会・工夫に力点を置き目標値達成に努めていただきたい。 |

令和3年度施策評価

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|------------------|--|--------------------------|--------|------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち | | |
| 2 | 施策 | 3-3 | 文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する | | |
| 3 | 対応するSDGs | | | | |
| 4 | 施策の方向性(後期基本計画より) | 文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します。 | | | |
| 5 | 評価者等 | | 部 名 | 補職名・課名 | 氏 名 |
| | | 評価者(部長級) | 市民文化部 | 部 長 | 中井 誠 |
| | | 施策主担当課 | 市民文化部 | 文化振興課 | - |
| | | 施策関係課 | 市民会館跡地活用推進課、歴史文化財課、中央図書館 | | |
| 6 | 施策内の取組 | 3-3-1 | 多様な主体の協働による文化のまちづくり | | |
| | | 3-3-2 | 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり | | |
| | | 3-3-3 | 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成 | | |
| | | 3-3-4 | 歴史遺産の保存・継承 | | |
| | | 3-3-5 | 郷土への愛着心とブランド形成 | | |
| | | | | | |

2 令和3年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|---|--|---|--|--|--|
| 1 | 総合評価 | B | <p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p> | | |
| 2 | 評価理由(R3年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) | | R3年度末現在の施策の主な課題 | | |
| | <p>コロナ禍の影響で多くの事業が中止となる中、芸術団体(芸術家)に活動の場を、市民に鑑賞の場を提供するため、文化振興財団が芸術団体等と連携してイベントを創る取組に要する費用を補助しました。また、新型コロナウイルスによる市民の不安やストレス緩和の一助とするため、創意工夫した取組を募集した提案公募型公益活動支援事業補助には、9件の応募がありました。</p> <p>市民会館跡地エリアについては、新施設及び芝生広場の設計業務を完了し、本体工事に着手したほか、関係課職員で構成される庁内横断的な組織(開館準備チーム)を設置し、令和5年秋の開館に向けた式典やイベント等についての検討を開始しました。</p> <p>コロナ禍の影響で文化振興事業が中止となるなか、いばらき×立命館芸術振興プロジェクトを立ち上げたほか、文化事業の動画配信に努めるなど、市民の鑑賞機会を確保しました。</p> <p>富士正晴記念館は感染拡大防止のため休館期間があったものの、再開後は企画展や講演会を実施し周知に努めました。</p> <p>前年度開催できなかった子どもと保護者を対象とした文化芸術の講座やワークショップを再開したほか、障害の有無に関わらず児童・生徒が絵画・造形を楽しむ機会を確保するため「maru」を開始しました。</p> <p>川端康成文学館俳句コンクールでは小・中学生、高校生の応募がそれぞれ大幅に増え、2,432件の学生応募がありました。</p> <p>文化財資料館では、年度後半には感染症対策をとりつつ、テーマ展と企画展の同時開催によりメディアに取り上げられるなど、厳しいながらも一定の成果を上げることができました。また、地域の文献史料の保存と活用の拠点として、同館内に郷土史料室を開室しました。</p> <p>「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRに向けた「川端康成青春文学賞」は931件の応募がありました。</p> <p>以上から、新型コロナウイルスの影響が続く中でも概ね各施策の方向性に沿って進行していると判断し、総合評価は「B」とします。</p> | | 課題① | 新施設を見据えて、文化振興ビジョンの改定について検討を進める必要があります。 | |
| | | | 課題② | 市民総合センターは施設竣工から32年が経過しており、計画的に予防保全を行う観点から、外壁タイル等の全面打診等による調査が必要です。 | |
| | | | 課題③ | 障害の有無にかかわらず参加できる文化芸術の講座「maru」は定員を大幅に上回る状況となっており、事業の拡充について検討が必要です。 | |
| | | | 課題④ | 文化財所有者の方に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけていく必要があります。 | |
| | | | 課題⑤ | 過去の資料を展示する既存事業だけではなく、文学に関心が高くない方などへの訴求力を高め、より多くの方に文学に興味・関心を持ってもらえる取組が必要です。 | |

| | | | |
|---|--------|-----|----------------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち |
| 2 | 施策 | 3-3 | 文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する |

3 施策内の取組の評価

| | | | | | | | |
|---|-----------------------|---|---|--------|-------|--------|---------|
| 1 | 取組 | 3-3-1 | 多様な主体の協働による文化のまちづくり | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | 文化振興課 | 課長名 | 今西 雅子 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 市民の多様性、自主性を尊重することによる多様な主体の協働や、文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 新型コロナウイルスの影響で多くの事業が中止となる中、芸術団体(芸術家)に活動の場を、市民に鑑賞の場を提供するため、文化振興財団が芸術団体等と連携してイベントを創る取組に要する費用を補助しました。 また、新型コロナウイルスによる市民の不安やストレス緩和の一助とするため、創意工夫した取組を募集した提案公募型公益活動支援事業補助には、9件の応募がありました。 市が芸術団体等と協働・連携して実施する事業を、さらに増加させる必要があるため、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| | 市が他の主体と協働・連携して実施する事業数 | 件 | ↗ | 5 | 17 | 20(R6) | |
| | 提案公募型公益活動支援事業補助申請件数 | 件 | ↗ | 9 | 9 | — | |

| | | | | | | | |
|---|------------------|--|--|--------|--------|------------|---------|
| 1 | 取組 | 3-3-2 | 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | 文化振興課 | 課長名 | 今西 雅子 |
| 3 | 関係課 | 中央図書館、市民会館跡地活用推進課 | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 様々な場所で文化と身近にふれることのできる環境を整備し、障害の有無にかかわらず、市民が文化芸術を鑑賞、参加、創造する機会が充実しています。 また、高齢者や子育て世代、若者、障害者、外国人など、それぞれの文化芸術ニーズに応える事業を行うことにより、市民誰もが、気軽に文化芸術とふれる・感じる・つながる環境が整っています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 市民会館跡地エリアについては、おにクル及び芝生広場の設計業務を完了し、本体工事に着手したほか、関係課職員で構成される庁内横断的な組織(開館準備チーム)を設置し、令和5年秋の開館に向けた式典やイベント等についての検討を開始しました。 コロナ禍の影響で文化振興事業が中止となるなか、前年度に開催した映像作品のコンクール映像芸術祭の上映展覧会の開催やいばらき×立命館芸術振興プロジェクトを立ち上げたほか、文化事業の動画配信に努めるなど、市民の鑑賞機会を確保しました。 富士正晴記念館は新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館期間があったものの、再開後は企画展や講演会を実施し、記念館の周知に努めました。また、茨木まちなみレポーターの取材を受け、作家「富士正晴」の魅力を発信しました。 市民が文化芸術に触れる機会が増加しましたが、おにクル開館に向けた式典・イベント等の検討をさらに進める必要があるため、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| | 市立ギャラリー入場者数 | 人 | ↗ | 8,748 | 11,216 | 16,000(R6) | |
| | 文化振興イベント参加者数 | 人 | ↗ | 553 | 7,911 | 24,000(R6) | |

| | | | |
|---|--------|-----|----------------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち |
| 2 | 施策 | 3-3 | 文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する |

| | | | | | | | |
|-----------------------|------------------|---|--|--------|-----------|------|---------|
| 1 | 取組 | 3-3-3 | 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | 文化振興課 | 課長名 | 今西 雅子 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っていません。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | <p>前年度開催できなかったこともと保護者を対象とした講座やワークショップを再開したほか、障害の有無にかかわらず、児童・生徒が絵画・造形を楽しむ機会を確保するため、「maru」を開始しました。</p> <p>川端康成文学館俳句コンクールでは小・中学生、高校生の応募がそれぞれ大幅に増え、2,432件の学生応募がありました。</p> <p>子どもたちが芸術文化を楽しむ機会の充実に努め、参加者や応募者の増加につながりましたが、「maru」については申し込みが定員を大幅に上回り、ニーズに対応できない状況となっており、拡充手法についての課題があることから、「b」評価とします。</p> | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| 子ども対象の芸術文化講座 参加者数 | 人 | ↗ | 0 | 53 | 150(R6) | | |
| 川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数 | 件 | ↗ | 1,482 | 2,432 | 1,600(R6) | | |

| | | | | | | | |
|----------------|------------------|--|--|--------|------------|------|---------|
| 1 | 取組 | 3-3-4 | 歴史遺産の保存・継承 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 教育総務部 | 課名 | 歴史文化財課 | 課長名 | 木下 典子 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | a | <p>コロナ禍により、文化財資料館の閉館期間が発生したことや、史跡郡山宿本陣の団体見学が中止になったことにより、例年より入館者数が大きく落ち込みました。年度後半には感染症対策をとりつつ、テーマ展と企画展を同時開催することにより、メディアに取り上げられるなど厳しいながらも一定の成果を上げることができました。また、地域の文献史料の保存と活用の拠点として、同館内に郷土史料室を開室しました。埋蔵文化財については、発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しています。なお、新型コロナウイルス感染症対策を取りつつ、追手門学院において現地見学会を開催しました。</p> <p>以上のことから、順調進行していると判断し、「a」評価とします。</p> | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| 文化財資料館テーマ展見学者数 | 人 | ↗ | 0 | 4,151 | 2,500人(R4) | | |

| | | | |
|---|--------|-----|----------------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち |
| 2 | 施策 | 3-3 | 文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する |

| | | | | | | | |
|-------------------|------------------|---|--|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 | 取組 | 3-3-5 | 郷土への愛着心とブランド形成 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | 文化振興課 | 課長名 | 今西 雅子 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | “茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にする気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持つブランドが形成されており、市内外に情報が発信されています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館や展示・講座の中止の影響により、川端康成文学館の入館者数は前年から横ばいとなっています。 「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRに向けた「川端康成青春文学賞」は931件の応募がありました。 コロナ禍において可能な取組を実施しましたが、より多くの方に文学に興味・関心を持ってもらい、入場者数の増加させる必要があるため、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| | | 川端康成文学館入場者数 | 人 | ↗ | 4,316 | 4,336 | 9,000(R6) |
| 川端康成文学館夏休み企画展入場者数 | 人 | ↗ | 529 | 369 | 1,000(R6) | | |

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

| | | |
|---|-------|--|
| 1 | 学識経験者 | 国立民族学博物館 出口 正之 名誉教授 |
| 2 | 意見等 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍という前例のない、困難な社会状況の中、前例のない創意工夫した取組を実施した点。また市のメルクマールとなる新施設的设计・建築をその中でしっかりと推し進めた点は高く評価できる。前例主義のお役所仕事が多い中であって、このような対応は「A」にふさわしいと考える。 ・市民会館跡地エリアの新施設建設についても、通常のルーティンワークから離れた大プロジェクトであり、前例を踏まえることに慣れている行政組織が積極果敢に、新施設及び芝生広場の設計業務を完了し、本体工事に着手し、式典やイベント等についての検討を開始したことは、高く評価できる。 ・各種文化イベント、施設を活用した行事等についても、コロナ禍で消極的な施策に終始する自治体が少なくない中で、いばらき×立命館芸術振興プロジェクトを立ち上げ、文化事業の動画配信、障害の有無にかかわらず参加できる文化芸術の講座「maru」の開始など、コロナ禍の中で積極果敢にできることに挑戦していった姿勢は非常に誇れるものと思う。 |

令和3年度施策評価

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|----------------------|--|---------------------------|--------|-------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち | | |
| 2 | 施策 | 3-4 | 観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する | | |
| 3 | 対応するSDGs | <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> 8 <small>働きがいも経済成長も</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> 12 <small>つくる責任つかう責任</small> </div> </div> | | | |
| 4 | 施策の方向性 (後期基本計画より) | 茨木市の自然、歴史、文化、地域で生み出される特産品など豊富で魅力的な観光資源を最大限に活用し、市内外の人が訪れて「楽しい」と思ってもらえるよう、観光資源をつなぐ取組を推進します。さらに、観光協会と連携し、幅広い年代に応じた効果的な情報発信を行い、わがまちに誇りを持てる、観光をいかしたまちづくりを進めます。 | | | |
| 5 | 評価者等 | | 部 名 | 補職名・課名 | 氏 名 |
| | | 評価者(部長級) | 産業環境部 | 部 長 | 松本 栄子 |
| | | 施策主担当課 | 産業環境部 | 商工労政課 | — |
| | | 施策関係課 | まち魅力発信課、農林課、北部整備推進課 | | |
| 6 | 施策内の取組 | 3-4-1 | 観光資源の発掘とネットワーク化の推進 | | |
| | | 3-4-2 | 観光情報の発信を強化 | | |
| | | 3-4-3 | 官民協働で観光事業を推進 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

2 令和3年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|---|--|---|---|---|--|
| 1 | 総合評価 | B | A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 | | |
| 2 | 評価理由(R3年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) | | R3年度末現在の施策の主な課題 | | |
| | 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が継続し、大規模イベントの実施は難しく、時期によっては集客を募る催しが困難な状況でありました。その中でも、継続して本市の魅力発信に取り組み、感染状況を注視しながら官民ともに一定のイベントは実施・再開されました。 ウォーキングイベントやイルミフェスタ等、商店街やIBALAB@広場で実施されるイベントなどにより、魅力資源のPRとネットワーク化が促進されました。また、北部地域については、観光農園やマルシェを通じて魅力の創出と発信が行われたほか、新たな魅力資源となる安威川ダム周辺整備の取組において、新たに整備する公園の機能について、実際に活動したい方との話し合いを行いました。 観光情報の発信につきましては、コロナ禍でコンテンツは減少しましたが、広報誌や市ホームページをはじめ、関係団体の広報手段等を活用し、本市の魅力発信を行いました。 全体としては、施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断しますが、令和3年度は感染拡大の影響で実施できない事業も多かったことから、総合評価は「B」とします。 | | 課題① | 安威川ダムやおにクルなど、新たな魅力スポットも含め、積極的な情報発信に取り組むことが必要です。 | |
| | | | 課題② | 安威川ダムの公園づくりワークショップにおける公園外エリアを含んだ提案について、北部地域の関係人口を増やす観点から、実現性の高い手法を検討し、状況に応じて公園設計へ反映する必要があります。 | |
| | | | 課題③ | | |
| | | | 課題④ | | |
| | | | 課題⑤ | | |

| | | | |
|---|--------|-----|---------------------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち |
| 2 | 施策 | 3-4 | 観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する |

3 施策内の取組の評価

| | | | | | | | |
|---|--------------------------------------|---|--|--------|-------|------|---------|
| 1 | 取組 | 3-4-1 | 観光資源の発掘とネットワーク化の推進 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 産業環境部 | 課名 | 商工労政課 | 課長名 | 河原 勝利 |
| 3 | 関係課 | 北部整備推進課、まち魅力発信課、農林課 | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 市の観光資源をいかした多彩な企画が催されています。また、豊かな自然をいかし、各所でもぎ取り園など農業関連イベントが開催され、多くの市民で賑わっています。 新たに整備された観光資源ネットワークが市民に周知され、多様なイベント・企画によって世代性別を問わず訪れた人々で賑わっています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | a | 感染状況を踏まえた対策を講じ、阪急電鉄・沿線自治体と連携した「阪急沿線観光あるき」、観光協会による魅力スポットをめぐるガイドウォークなど、本市の魅力のPRと来訪・回遊の促進を図りました。観光ウォークは、感染拡大の影響により、令和2年度は2回実施でしたが、令和3年度は7回実施できました。北部地域については、観光農園のほか、地元団体等と連携したイベント、学生ボランティアを中心とした農業体験など、魅力の創出と発信に努めました。市主体で実施してきた、まちなかでの生産者によるマルシェについては、民間事業者による主体的な取組へとつなげることができました。安威川ダム周辺整備で整備する公園については、公園で実際に活動したい方を対象にしたワークショップを開催し、北部地域の課題の共有を図るとともに、活動者として必要な公園の機能を話し合いました。以上のことから順調に進行していると判断し、「a」評価とします。 | | | | |
| | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| | 阪急沿線観光あるき ウォーキングアプリにおける茨木市作成コースの踏破回数 | 回 | ↗ | 644 | 698 | 680 | |
| | 「いばらき観光ウォーク」参加者数 | 人 | ↗ | 51 | 201 | - | |

| | | | | | | | |
|---|------------------|--|---|--------|--------|------------|---------|
| 1 | 取組 | 3-4-2 | 観光情報の発信を強化 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 産業環境部 | 課名 | 商工労政課 | 課長名 | 河原 勝利 |
| 3 | 関係課 | まち魅力発信課 | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 積極的な情報発信により、イベントや企画が多くの人で賑わっています。 観光に訪れようとする市内外の人たちが、容易に必要な情報を取得できる環境が整っています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | a | コロナ禍でイベントの中止や、集客を回避する傾向があり、情報発信のコンテンツは減少しましたが、広報誌や市ホームページ・SNSをはじめ、関係団体の広報媒体、催し等も含め、本市の魅力の発信を行いました。特に、コロナ禍において本市魅力の再認識を促すため、市内のスポットを、広報誌の特集や市ホームページの特設ページ「#エール茨木」で幅広く紹介するなどの取組を行い、市SNSの総登録者数が増加傾向にあるなど、施策の方向性に沿って順調に推移していることから「a」評価とします。 | | | | |
| | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| | 市SNSの総登録者数 | 件 | ↗ | 16,509 | 18,077 | 17,000(R3) | |

| | | | |
|---|--------|-----|---------------------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち |
| 2 | 施策 | 3-4 | 観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する |

| | | | | | | | |
|------------|------------------|---|---|--------|-------|-----------|---------|
| 1 | 取組 | 3-4-3 | 官民協働で観光事業を推進 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 産業環境部 | 課名 | 商工労政課 | 課長名 河原 勝利 | |
| 3 | 関係課 | まち魅力発信課 | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 市民や関係団体が主体的に加わるかたちで観光の振興が進められ、まちが活性化し、賑わいが創出されています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 長期化する新型コロナウイルスの感染拡大により、茨木フェスティバルをはじめとした大規模な集客イベントについては中止となり、主要イベントの集客数は見込めませんでした。イルミフェスタは、幼稚園等に光る作品の製作に協力いただき、展示の動画を配信するなど、密にならずにイベント参加を促す新たな取組を実施しました。その他、商店街やIBALAB@広場などをフィールドとしたイベントは、感染対策を講じたうえで徐々に再開・実施されるようになり、コロナ禍での楽しさ・癒しを提供するものとなりました。今後は、Withコロナ下での各事業の在り方を検討し、イベントの実施手法、来場者だけでなく来場者の満足度の向上をめざし、取組を進めることが必要であることから、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| 主要イベントの集客数 | 人 | → | 150 | - | - | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

| | | | | | | |
|---|-------|---|--|--|--|--|
| 1 | 学識経験者 | 高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授 | | | | |
| 2 | 意見等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」で評価されているように、コロナ禍でも継続した本市の魅力発信が取り組まれ、一定のイベントが実施できたようであり、中には目標値を超える成果が見られ、市の観光資源の活用・創出と魅力あるまちづくりを進めるといふ施策の方向性から評価すると「B」には妥当性がある。 ・商店街、観光協会や観光農園などの民間団体との積極的な連携・協力によって「観光ウォーク」「まちなかでのマルシェ」など、市の新しい観光資源を創造するとともに、公園整備についてのワークショップ開催などの取組が行われており、「A」評価に近い成果であると考え。 ・「観光情報の発信の強化」については、市の評価が漠然としており、何が効果的であったのかなどについては読み取れなかった。より具体的な情報提供の方策を追求する必要があり、検討されることを望む。 ・官民協働での観光事業の取組では、「イルミフェスタ」での創意工夫ある実践が記されており、小規模ながら今後の事業発展につながる方途が見えるような成果があったと考える。 | | | | |

令和3年度施策評価

施策評価シート

1 施策の概要

| | | | | | |
|---|----------------------|--|---------------------|--------|------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち | | |
| 2 | 施策 | 3-5 | 都市間の交流と国際化を推進する | | |
| 3 | 対応するSDGs |  | | | |
| 4 | 施策の方向性 (後期基本計画より) | 国内外の姉妹都市を中心とした市民レベルの交流を促し、他地域の文化の理解を深めるとともに、様々な分野での文化活動の交流を図ります。さらに、市民の異文化理解活動を支援し、国籍を超えた多彩な交流を進めます。 | | | |
| 5 | 評価者等 | | 部 名 | 補職名・課名 | 氏 名 |
| | | 評価者(部長級) | 市民文化部 | 部 長 | 中井 誠 |
| | | 施策主担当課 | 市民文化部 | 文化振興課 | — |
| | | 施策関係課 | 人権・男女共生課 | | |
| 6 | 施策内の取組 | 3-5-1 | 都市間交流の促進 | | |
| | | 3-5-2 | 地域国際化を推進するための環境整備 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

2 令和3年度末現在の施策の現状と課題

| | | | | | |
|---|--|----------|--|--|--|
| 1 | 総合評価 | B | <p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p> | | |
| 2 | 評価理由(R3年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) | | R3年度末現在の施策の主な課題 | | |
| | <p>都市間交流の促進については、新型コロナウイルスの影響により多様な交流機会の提供を行うことが難しい状況であり、姉妹・友好都市への市民訪問団は中止となりましたが、茨木市国際親善都市協会と連携し、国内外の姉妹・友好都市と子どもの絵画・書の交換事業やオンラインを活用したミネアポリス市とのミーティング、ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会のニューズレターへの寄稿を継続的に実施するなどし、コロナ禍においても新しい生活様式をふまえた交流を行うことができました。また、茨木美術協会が実施した「茨木の魅力を芸術・文化を通して姉妹都市に発信する」事業に協力を行い、交流を深めました。宿泊施設利用補助制度の利用者数については、前年度より増加しており、直接的な交流についても、再開がなされ始めています。</p> <p>地域国際化を推進するための環境整備については、茨木市国際親善都市協会と連携し、「国際交流の集い」を、少人数による申込制とし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえた実施形式で開催しました。通訳(翻訳)ボランティアについては前年度と比較し、派遣数が減少しています。その他の取組として、在住外国人にマンツーマンで日本語教育を行う実用日本語学習会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを活用し実施を継続するとともに、感染症対策を行い、対面による学習会も継続して実施しています。</p> <p>以上から、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえた事業を実施し、全体としては施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。</p> | | 課題① | 小豆島町との姉妹都市提携35周年を記念するとともに、市民レベルでの交流を促し、互いの文化の理解を深める必要があります。 | |
| | | | 課題② | 竹田市との姉妹都市提携10周年を記念するとともに、市民レベルでの交流を促し、互いの文化の理解を深める必要があります。 | |
| | | | 課題③ | 通訳ボランティアに対する市民ニーズを把握するとともに、多様な言語に対応できるよう、幅広くボランティアを募集するする必要があります。 | |
| | | | 課題④ | 外国人施策に関わる庁内及び各種団体との連携、調整を図りながら、情報の共有、発信を行い、コーディネーター機能を強化する必要があります。 | |
| | | | 課題⑤ | 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う、新しい生活様式をふまえた事業を実施する必要があります。 | |

| | | | |
|---|--------|-----|---------------------|
| 1 | まちの将来像 | 3 | みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち |
| 2 | 施策 | 3-5 | 都市間の交流と国際化を推進する |

3 施策内の取組の評価

| | | | | | | | |
|--------------------------------------|------------------|--|---|--------|---------|------|---------|
| 1 | 取組 | 3-5-1 | 都市間交流の促進 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | 文化振興課 | 課長名 | 今西 雅子 |
| 3 | 関係課 | | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 市民や関連団体等との連携により、交流が活性化し、様々な「つながり」が生まれています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 新型コロナウイルスの影響により多様な交流機会の提供を行うことが難しい状況であり、姉妹都市への市民訪問団は中止となりましたが、茨木市国際親善都市協会と連携し、国内外の姉妹・友好都市と子どもの絵画・書の交換事業やオンラインを活用したミネアポリス市とのミーティング、ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会のニュースレターへの寄稿を継続的に実施するなどし、コロナ禍においても新しい生活様式をふまえた交流を行うことができました。また、茨木美術協会が実施した「茨木の魅力を芸術・文化を通して姉妹都市に発信する」事業に協力をし、交流を深めました。宿泊施設利用補助制度の利用者数については、前年度より増加しています。多くの方の対面での直接的な交流ができなかったことから、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| 宿泊施設利用補助制度利用者数(小豆島町・竹田市) | 人 | ↗ | 65 | 104 | 190(R3) | | |
| 市民訪問団等参加者数(姉妹・友好都市市民訪問団・ミネアポリス体験ツアー) | 人 | ↗ | 0 | 0 | 10(R3) | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|------------------|--|--|--------|---------|------|---------|
| 1 | 取組 | 3-5-2 | 地域国際化を推進するための環境整備 | | | | |
| 2 | 主担当課 | 部名 | 市民文化部 | 課名 | 文化振興課 | 課長名 | 今西 雅子 |
| 3 | 関係課 | 人権・男女共生課 | | | | | |
| 4 | 目標 (後期基本計画より) | 市内に在住する外国人が暮らしやすく、また、外国人訪問客が周遊しやすい環境が整っています。市内に住む人々が国籍を超えて交流しています。 | | | | | |
| 5 | R3年度末現在の取組の現状 | 取組の評価 | 評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等) | | | | |
| | | b | 茨木市国際親善都市協会と連携し、実施している交流イベント「国際交流の集い」は、少人数による申込制とし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえた実施形式で開催しました。通訳(翻訳)ボランティアについては対応できない言語の通訳依頼が増えたため、派遣数が減少しています。その他の取組として、在住外国人にマンツーマンで日本語教育を行う実用日本語学習会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインを活用し実施を継続するとともに、感染症対策を行い、対面による学習会も継続して実施しています。在住外国人に対する支援に関しては、関係各課との情報共有を行うなど連携を行いました。コーディネーター機能を強化する必要があることから、「b」評価とします。 | | | | |
| | | | a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ | | | | |
| | | 参考指標 | 単位 | めざす方向性 | 実績値 | | 目標値(年度) |
| | | | | | R2年度 | R3年度 | |
| 国際交流の集い参加者数 | 人 | ↗ | 0 | 30 | 400(R3) | | |
| 通訳(翻訳)ボランティア派遣数 | 件 | ↗ | 32 | 18 | 40(R3) | | |

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

| | | |
|---|-------|---|
| 1 | 学識経験者 | 高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授 |
| 2 | 意見等 | <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市・友好都市との都市間交流については、各種関係団体との連携・協力があり、コロナ禍という困難な状況の中で一定の成果を示している。地域国際化の推進についても、三密対策を行った形式で事業実施し、デジタルと対面の両方で実用日本語学習会を行うなどがあり、総合評価「B」は妥当性が高いと思う。 ・都市間交流の促進については、国際親善都市交流協会との連携・協力がうまく進み、芸術系作品の交換やオンラインでの交流など、厳しい状況下において工夫のある事業運営が行われており、評価する。 ・美術協会が実施された事業についても、市の魅力を姉妹都市に発信することによって交流に努めている点についても、今後の事業の継続を期待する。 ・通訳ボランティア数の減少があるが、コロナ禍のために活動ができなかったことが理由なのだろうか。もし他の理由があれば、早急に原因を解明して対応していただきたい。また、在住外国人に対する支援は重要課題であるため、他の関係部局とより強い連携を図り、問題解決に臨むことを検討してほしい。 |